

指定校番号	29020	学級活動	児童会	○	クラブ活動	学校行事	小学校用
-------	-------	------	-----	---	-------	------	------

平成 29 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立栗原北小学校	校長	本藤 展康	生徒指導主事	利田 政美
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『児童会活動の活性化による集団としての高まりの涵養』

取組のねらい『キーワード：児童会活動による集団凝集性の涵養』

これまで本校には、自分が好きなことには積極的に取り組むが、集団における役割を十分に果たさない等、他者と協力してものごとに取り組もうとしない児童の姿が見られた。こうした状況に対し、高学年となった児童は、「みんなで同じ方向を向いて高まっていかなければいけない。もっと良い学校集団にしていかなければ・・・。」という強い課題意識と使命感を抱いてきた。そこで、高学年児童のこうした前向きな思いを現実化するため、高学年がリーダーとなる児童会活動の活性化を図ることにより、児童一人一人の集団に対する帰属意識を高め、児童が集団の中で相互に高まり合う学校づくりの実現を目指した。

身に付させたい資質・能力

スキル：情報活用能力，コミュニケーション能力

意欲・態度：粘り力，多様性適応力

価値観・倫理観：自らへの自信

取組の具体的内容『キーワード：児童の主体性を尊重した児童会活動の展開』

【ねらい】

- ・中学生の姿を良きモデルとして受け止めさせ、生活態度の向上についての取組を進展させる。
- ・児童集会において学級委員に決意表明させたり、学年発表をさせたりすることで、学級リーダーとしての主体性、使命感とともに、集団凝集性を高める。
- ・「心うきうき」の紹介、いじめ防止標語作成といった児童の心情にかかわる取組を通して、受容的な学級、学校風土や児童同士の信頼感の醸成に努める。

【内容】

- ・中学校生徒会執行部との交流
中学校生徒会が小学校に来て、小学校児童会執行部と一緒に挨拶を行う。
中学校や小学校の取組を交流したり、将来に向けての心構えを中学生に質問したりする。
- ・児童集会の活性化
1年生を迎える会、6年生を送る会、縦割り遊び、大縄跳び大会、学級委員の決意表明、学年発表、「心うきうき」の紹介、いじめ防止標語等、児童が主体的に活動する。
- ・児童会を中心とした挨拶運動
6年生と教職員と一緒に挨拶運動を行う。
- ・児童会の取組に対する評価の見える化
行事や学年発表後には相互評価を行い、取組の成果と課題を明確に認識する。



<児童の感想より>

○中学生と交流して、中学校では、行事内容を自分達で計画・練習して創り上げていたり、より良い学校にしていこうと、自分達で課題を見つけて解決していたりしていた。ぼくたちも、より良い小学校にしていこうと、まずは自分達が手本となるよう、良い行動を示していこうと思う。また、同じ目標に向かってみんなで高め合えるように、声をかけていこうと思う。(6年児童)

○中学生に、中学校に入学するまでに、小学校の勉強ができるようになっておくことや、自分で勉強



をする習慣を身につけておくことが大切であることを教えていただいた。しっかりと自主勉強をするなどして、勉強をする習慣を身につけていきたい。(6年児童)

○中学生から、「挨拶をすると、みんなが楽しくなります。地域も元気になります。小学校と中学校で元気に挨拶をし、一緒に歴史を作っていきますよ。」と言われた。挨拶の大切さがよくわかった。中学校と一緒にがんばっていききたい。(5年児童)

○児童集会で友達の「心うきうき」を聞いて、わたしの「心うきうき」と一緒だった。同じ思いを持っているんだなと思い、うれしくなった。(3年児童)

<いじめ防止標語 優秀作品より>

- 【1年】 やさしいともだちいっぱい あたたかい学校
- 【2年】 やさしいことば どんどんつかって なかよしクラス
- 【3年】 このルール ちゃんと守れば 楽しいよ
- 【4年】 みんなには いじめを止める 心がある
- 【5年】 思いやり 相手の立場に なってみて
- 【6年】 「やめようよ」 その一言で 救われる



取組の課題・創意工夫 『キーワード：小中連携，主体性の尊重，評価の見える化』

<創意工夫>

- ・中学校生徒会との連携により、児童会活動の良きモデルを考えさせ、望ましい姿に向けてのモチベーションが高まるようにした。
- ・教職員が児童会リーダーを中心に高学年の意欲やスキルの程度について把握し、高学年が自ら考えて下学年に指示，指導が行えるようにした。
- ・他学年の児童や保護者による多角的な評価を行い、評価を掲示する等、評価の見える化を図った。



<課題>

- ・教職員が児童の特性を十分に捉えきれず、児童の主体性を十分に伸ばしきれない場面があった。
- ・高学年児童に、望ましいコミュニケーションの方法を身につけさせる必要がある。

取組の成果（効果） 『キーワード：主体性の向上による集団凝集性の涵養』

- ・活動を重ねる毎に、児童会リーダーを中心とした高学年に自分達が活動を進めていくといった自覚と責任感が高まってきた。
- ・多様な挨拶運動や工夫された児童集会等により、学級や学校集団において受容的な雰囲気が醸成され、様々な活動において児童の協力する姿が多く見られるようになった。
- ・高学年が、下学年児童の良きモデルとなって行動しようとする姿が見られるようになった。また、下学年児童は、高学年に対する親和性を強めた。

共感的人間関係肯定感をもつ児童の割合

6月	12月
90%	92%

自己肯定感をもつ児童の割合

6月	12月
90%	90%

今後の展開 『キーワード：児童会活動の創造的発展』

- ・これまでの児童会活動を評価した上で今後の取組を見直し、集団凝集性や児童の自己肯定感をさらに高めることができるよう生徒指導部が計画的，系統的な指導，支援を行っていく。
- ・児童会の活動を高めるために、中学校生徒会との連携を強めていく。

他校へのアドバイス 『キーワード：主体性を尊重した児童会活動』

- ・児童会リーダーの意欲やスキル等の実態を十分に把握した上で中学校と連携し、全教職員が共通理解の基に取り組むことが、児童会活動の活性化を促し、児童が集団の中で相互に高まり合う学校づくりに有効であると考えます。

